



法隆寺及びJR法隆寺駅周辺地区
まちづくり基本構想

令和3年9月
斑鳩町

1. まちづくり基本構想策定の目的

斑鳩町には、世界文化遺産である法隆寺・法起寺をはじめ、その始まりを飛鳥時代にもつ、多くの社寺があり、その営みは1400年にわたり続いてきました。第5次斑鳩町総合計画では、『「和」で紡ぎ 未来へ歩む 私たちの斑鳩』をまちの将来像（まちづくりのテーマ）に掲げ、住民一人ひとりが、多様な価値観を尊重しながら、世代を超えて支え合い、未来へ歩いていくまちを目指しており、斑鳩町独自の魅力である豊富な歴史的・文化的資源や自然環境が一体となった町並みを今後とも守り・継承していく必要があります。

斑鳩町では、歴史的風致を後世に継承していくため、「斑鳩町歴史的風致維持向上計画」を策定し、平成26年2月に奈良県下の市町村ではじめて国の認定を受けました。この中では、法隆寺周辺を重点区域として、歴史的な町並みに調和した建物などの修景整備や文化財の保存・整備などを行い、今後、これらの地域や景観を、「散策・回遊型」のまちなか観光へつなげ、まちのにぎわいを創出し、地域経済への波及効果を高めることを目指しています。こういった取り組みを推進するため、これまで観光を軸とした取り組みを進めているものの、法隆寺だけ拝観して帰ってしまう「点」型の観光となっており、斑鳩町がもつ豊富な歴史的・文化的資源や自然環境と一体となった町並みなどの観光資源を行政・民間などが連携して十分に活用していくことが求められています。

一方で、斑鳩町は、近年、人口減少や少子高齢化が進んでいる中、住民の住みやすさの評価は約8割と高く、「今後も住み続けたい」と思っている方の割合も約8割と高い一方で、「買物など日常生活が不便である」と思っている方が約4割占めており、生活の利便性向上による定住促進が求められています。

以上の背景を踏まえ、斑鳩町では、歴史文化による観光振興と暮らし環境の向上による定住促進を推進することを目的として『法隆寺及びJR法隆寺駅周辺地区』を対象とした『まちづくり基本構想』を策定しました。なお、本構想は、平成30年3月に奈良県と斑鳩町が締結した、まちづくりに関する包括協定に基づき、とりまとめたものです。



法隆寺西院伽藍



JR法隆寺駅（北口）

2. まちづくり基本構想の位置づけ

本構想の位置づけは、上位計画である「第5次斑鳩町総合計画」に即した構想であるとともに、「斑鳩町歴史的風致維持向上計画」などの関連計画との整合を図ります。

上位計画

第5次斑鳩町総合計画
(令和3年3月)

第2期斑鳩町まち・ひと・
しごと創生総合戦略
(令和2年12月)

斑鳩町都市計画
マスタープラン
(令和3年2月)

即する

法隆寺及びJR法隆寺駅周辺地区
まちづくり基本構想

整合

関連計画

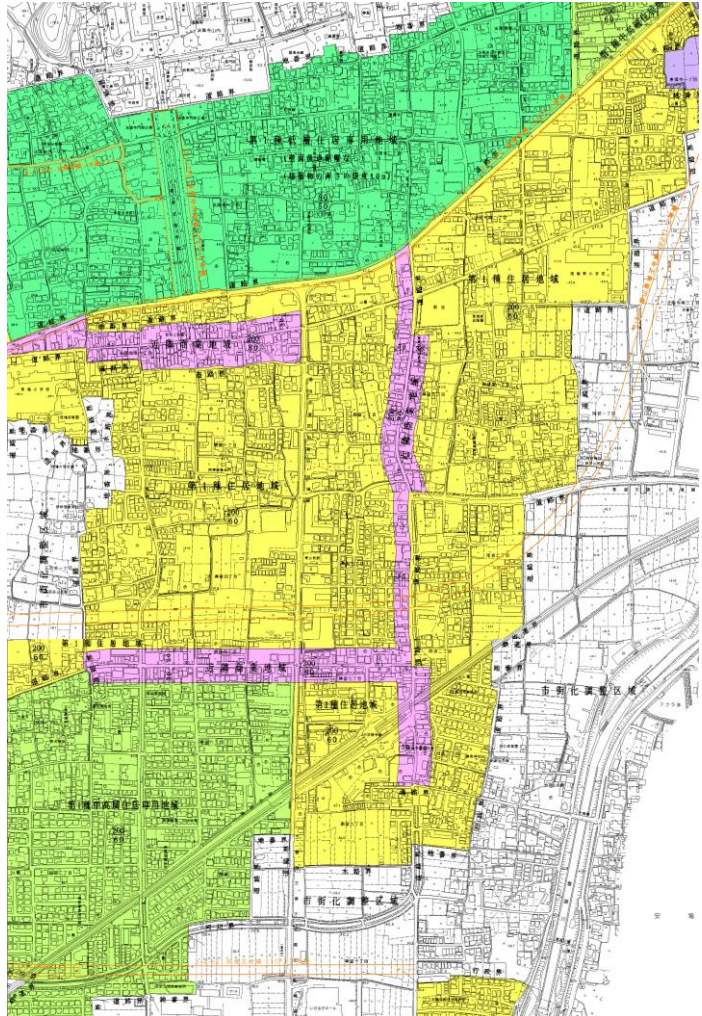
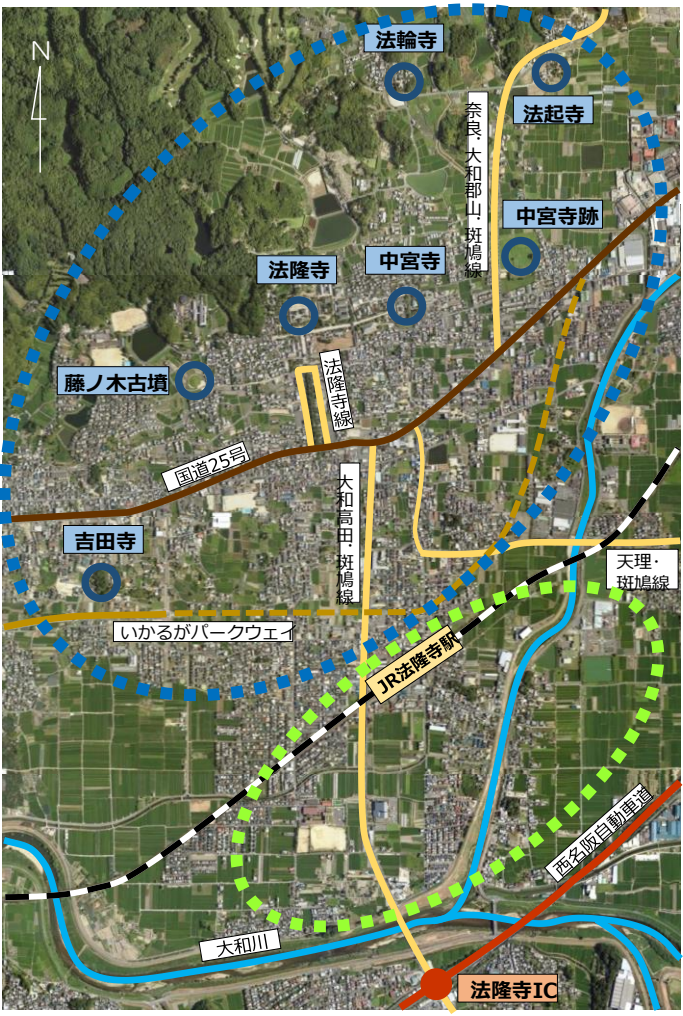
- ・ 斑鳩町歴史的風致維持向上計画 (平成26年2月)
- ・ 斑鳩町観光戦略 (平成29年3月)
- ・ 斑鳩町景観計画 (平成23年3月)
- ・ 斑鳩町バリアフリー基本構想 (平成30年3月)

県と
協議

奈良県と斑鳩町とのまちづくりに
関する包括協定 (平成30年3月)

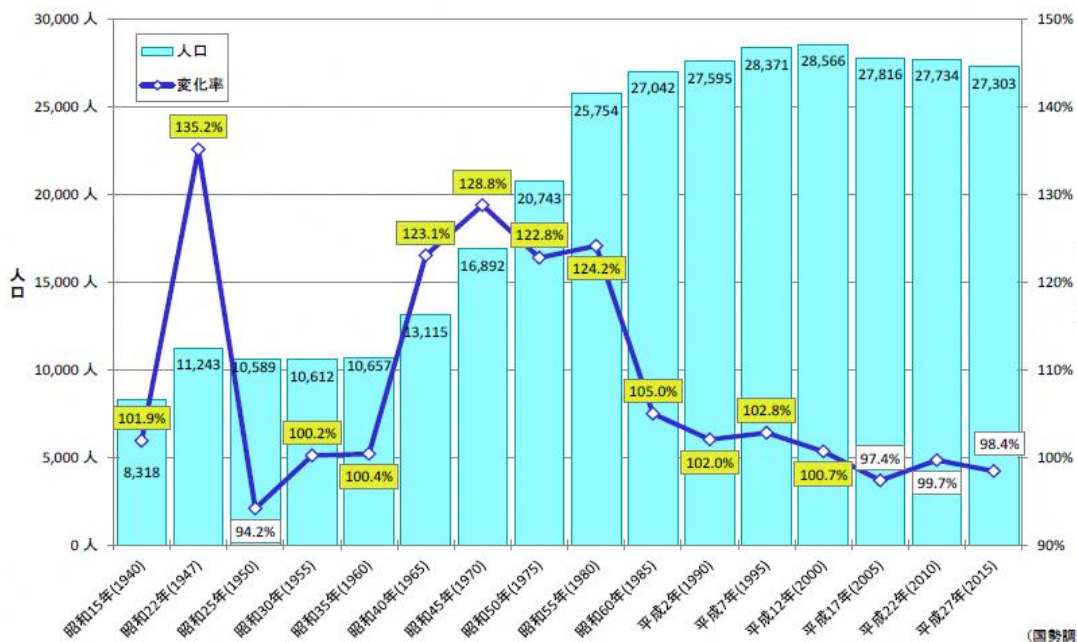
3. まちづくり基本構想の対象地区

対象となる地区は、法隆寺を中心とする歴史・文化・観光施設が点在する法隆寺を中心としつつ、県道大和高田・斑鳩線、天理・斑鳩線、国道25号、駅前商店街といったJR法隆寺駅から法隆寺までをつなぐエリアと法隆寺インターチェンジからJR法隆寺駅をつなぐ生活利便性の向上を見込むエリアを1つのエリアとし、これらを一体的とした地区としてまちづくりを進めていくこととします。



4. 斑鳩町の人口動向

人口と人口変化率の比率

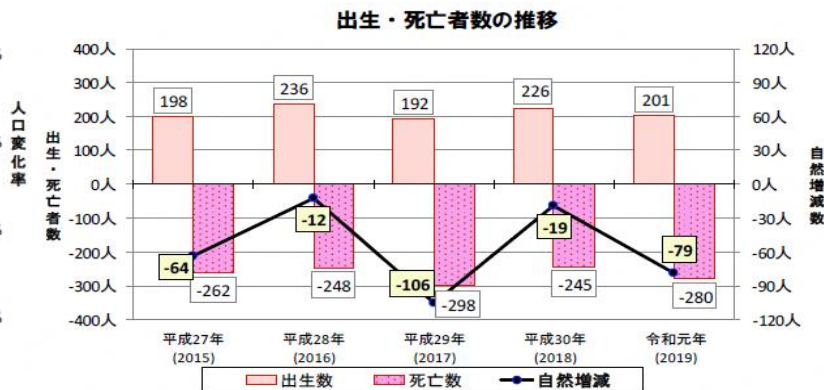


斑鳩町の人口は、ベビーブーム等に伴って1947年（昭和22年）に人口が大きく増加し、また、高度経済成長を背景に、1980年（昭和55年）にかけて大きく増加しました。2000年（平成12年）に28,566人でピークを迎えた後は緩やかな減少に転じ、2015年（平成27年）には27,303人となっています。

直近の人口動態

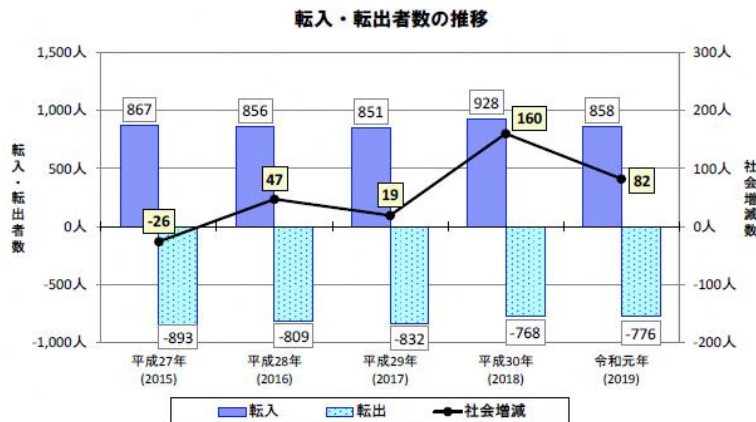
自然動態

2015～2019年の5年間の出生・死亡者数をみると、出生数、死亡者数ともに増減を繰り返しながら推移していますが、自然増減数については一貫して自然減となっています。



社会動態

2015～2019年の5年間の転入・転出者数をみると、転入者数、転出者数ともに増減を繰り返しながら推移しています。社会増減数については2015年以降は増加傾向で推移しています。



4. 斑鳩町の人口動向

将来人口の推移



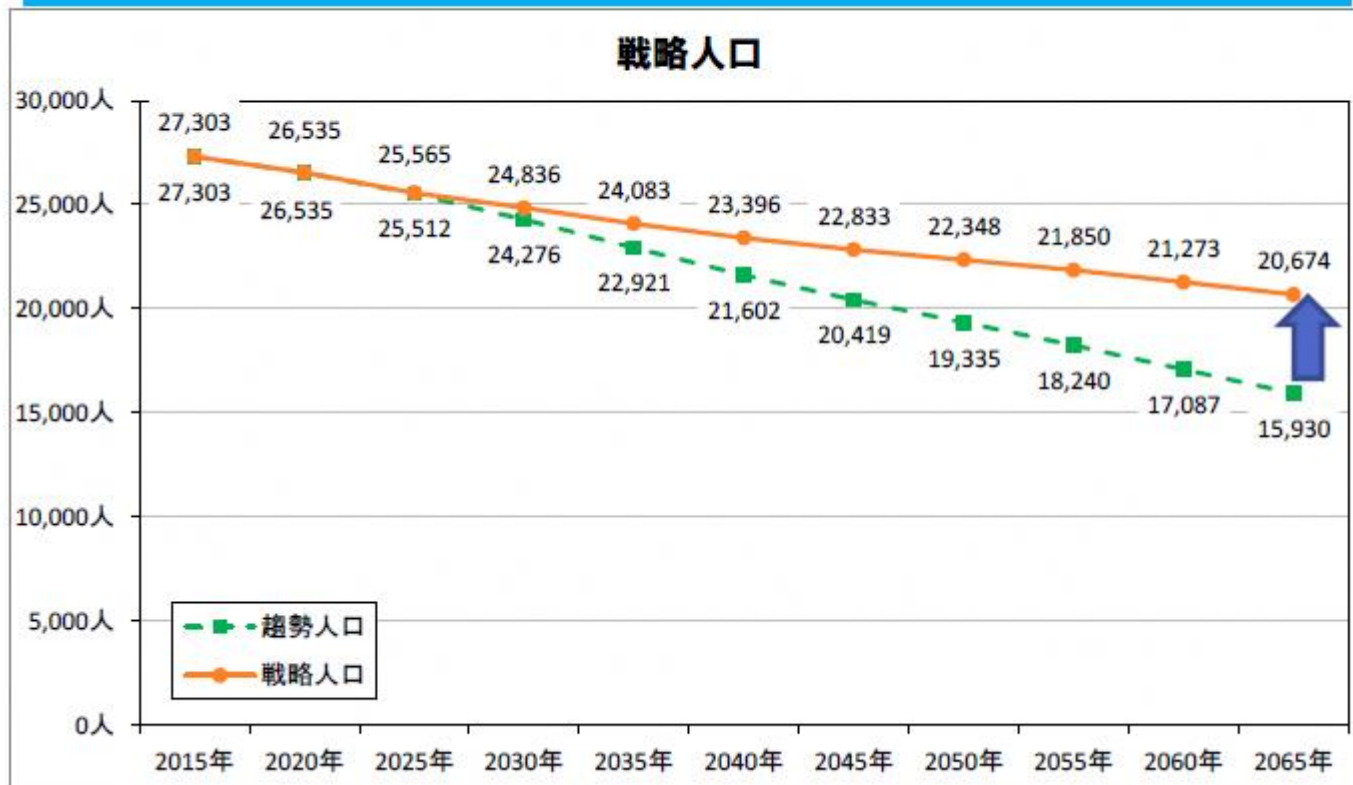
総人口は、2020年から2065年までに10,605人（約40.0%）減少し、15,930人になると推計されます。

○老年人口は、2020年から2065年までに2,729人（約33.3%）減少し、5,465人となりますが、人口全体の34.3%を占めるようになります。

○生産年齢人口は、2020年から2065年までに6,253人（約42.8%）減少し、8,361人に、年少人口は1,623人（約43.5%）減少し、2,104人になると推計されます。

4. 斑鳩町の人口動向

2065（令和47）年における戦略人口：20,700人



趨勢人口・・・人口減少対策の取組み等による効果を想定せず、このままの流れですすんだ場合の将来人口

戦略人口・・・総合戦略による戦略的な人口減少対策の取組みの結果として達成が見込まれる将来人口

【斑鳩町人口ビジョンより】

本町の人口動向や将来人口シミュレーションの分析を通じ、このままでは本町の趨勢人口は2065年に15,900人程度にまで減少することが明らかになりました。人口規模の縮小は、必ずしも弊害ばかりではないものと考えますが、趨勢人口では人口規模の縮小にともない、少子化・高齢化もさらにすすむこととなるため、本町の持続的・安定的な町政運営の観点やにぎわいと魅力のあるまちづくりをすすめていく観点などから、今後も、少子化対策や転入・定住の促進等の取組みにより、人口減少の抑制をはかるものとしています。

5. 対象地区の現況・特性 (①土地・建物)

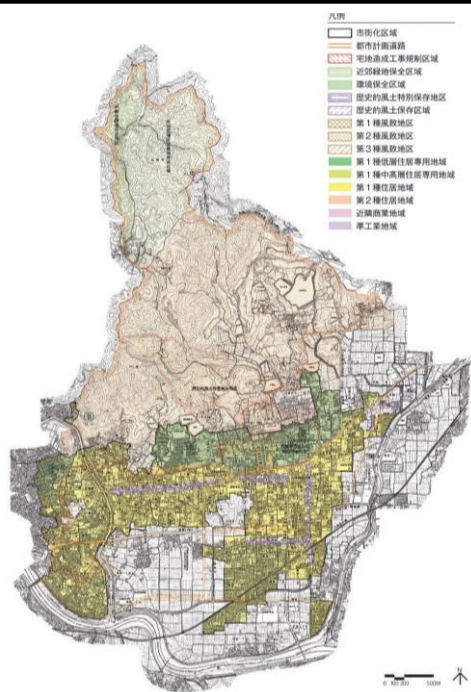
(1) 対象地区の現況

①土地・建物

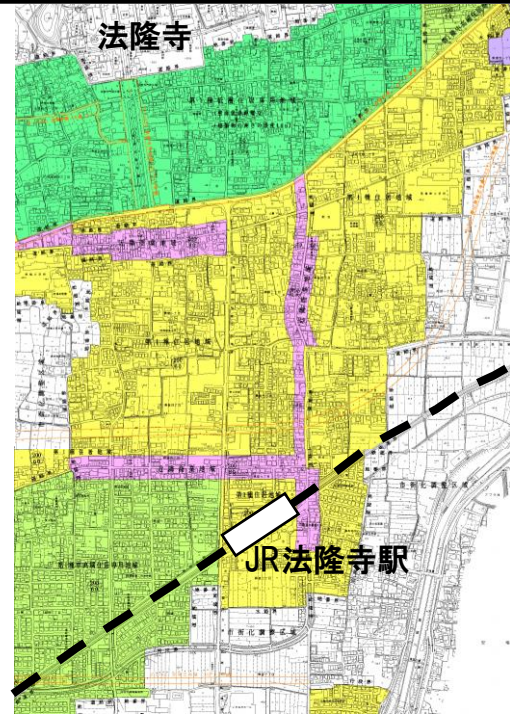
a. 用途地域の指定状況

本町は、行政区域全域が大和都市計画区域に含まれ、市街化区域と市街化調整区域の線引きがなされており、町域に対する割合は、市街化区域が約 3 割、市街化調整区域が約 7 割となっている。

対象地区については、旧来からの路線型商店街において商業系用途が指定されているものの、ほとんどが住居系用途で占めている。



拡大
→

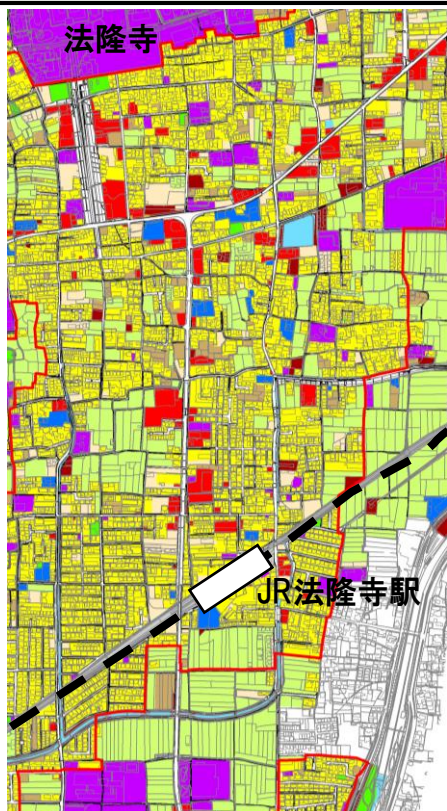


5. 対象地区の現況・特性 (①土地・建物)

b. 土地利用

県道や国道沿いに商業用地が見られるものの、市街化区域内は住宅用地が多くを占めており、JR法隆寺駅前や旧来からの商店街についても住宅用地で占められていることから、観光の玄関口としての雰囲気乏しく、空き店舗も多い状況となっている。

また、市街化区域と市街化調整区域にまたがるJR法隆寺駅南側には、田が広がっており、駅前の好立地が活かされていない。



土地利用の状況



JR法隆寺駅北口商店街の様子
(空き店舗)

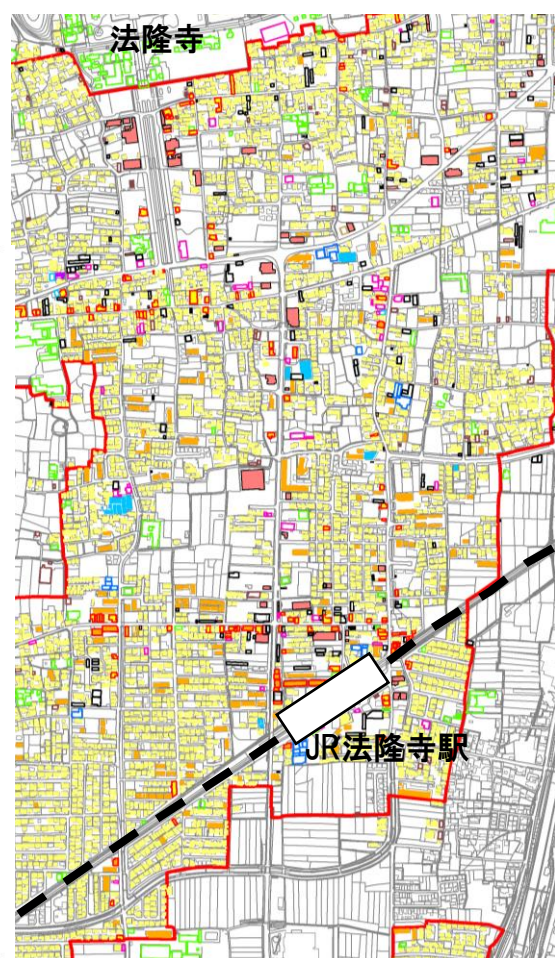


JR法隆寺駅北口の様子

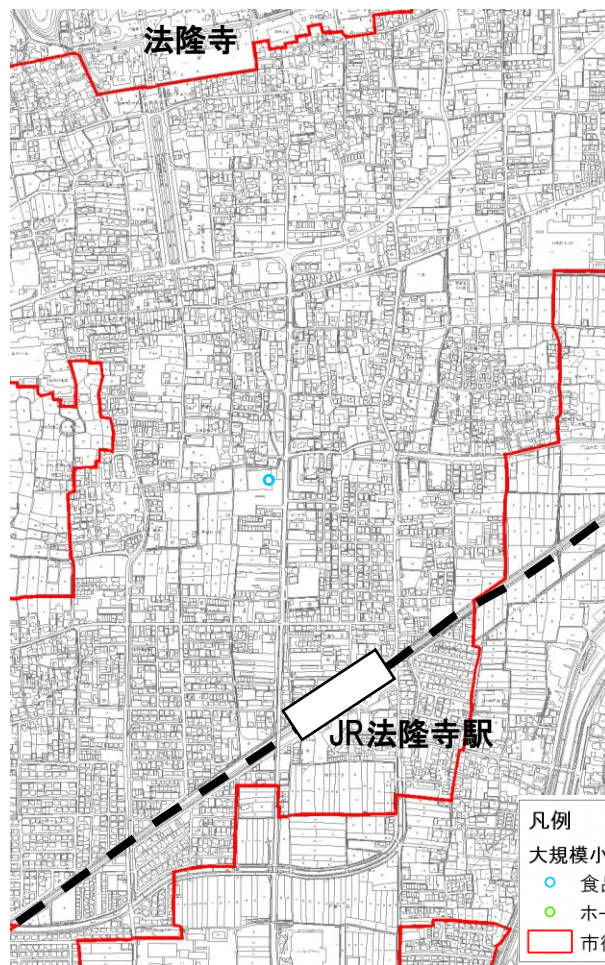
5. 対象地区の現況・特性 (①土地・建物)

c. 建物の立地状況

県道や国道沿いには商業施設がみられるものの、ほとんどが戸建住宅や共同住宅、店舗併用住宅となっている。また、大規模小売店舗の施設立地はみられない。



建物の状況



- 凡例
- 大規模小売店舗
 - 食品スーパー
 - ホームセンター・専門店(家具・家電・書籍等)
 - 市街化区域界

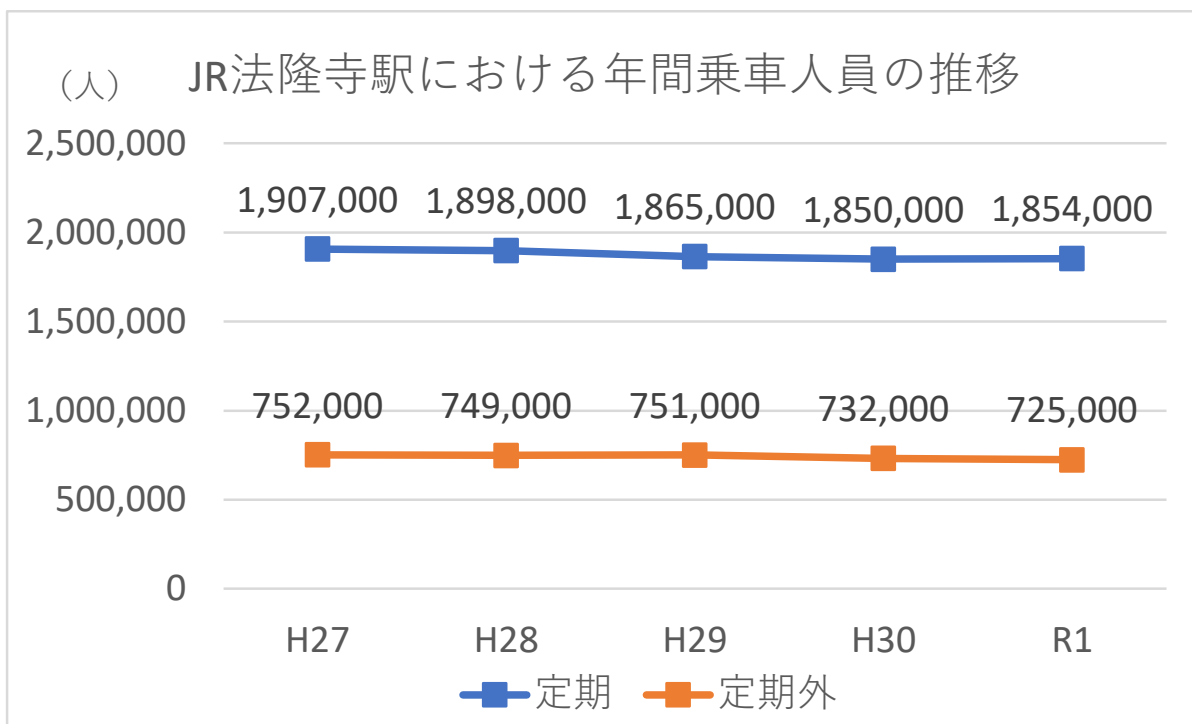
大規模小売店舗等の立地状況

5. 対象地区の現況・特性（②交通）

②交通

a. JR法隆寺駅の利用状況

JR法隆寺駅の乗車人員の推移は、定期利用者が減少傾向から近年持ち直しをみせている一方で、定期外利用者が減少傾向となっている。生産年齢人口や年少人口の減少による定期利用者の減少、鉄道による観光目的をはじめとした定期外の来訪者の減少が顕在化していることがうかがえる。



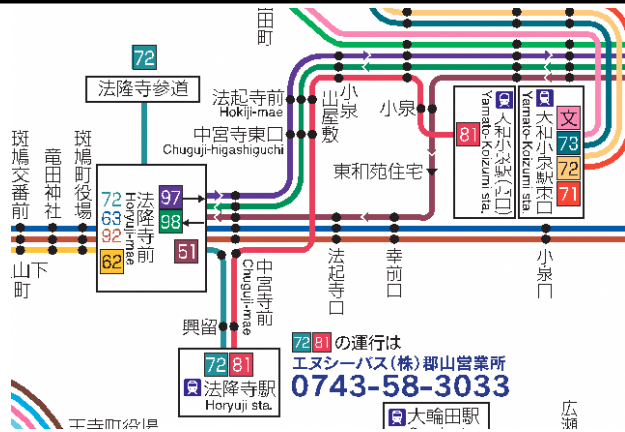
JR法隆寺駅における乗車人員の推移

5. 対象地区の現況・特性 (②交通)

b. 路線バス及びコミュニティバスの運行状況

JR法隆寺駅と法隆寺をつなぐ路線は1路線のみであり、平日23本、休日24本（1時間に2, 3本）となっており、営業時間が短いものとなっている。

コミュニティバスは、JR法隆寺と法隆寺をつなぐとともに、町内の歴史・文化・観光施設や公共施設等などを巡回しており、1日4便運行されている。

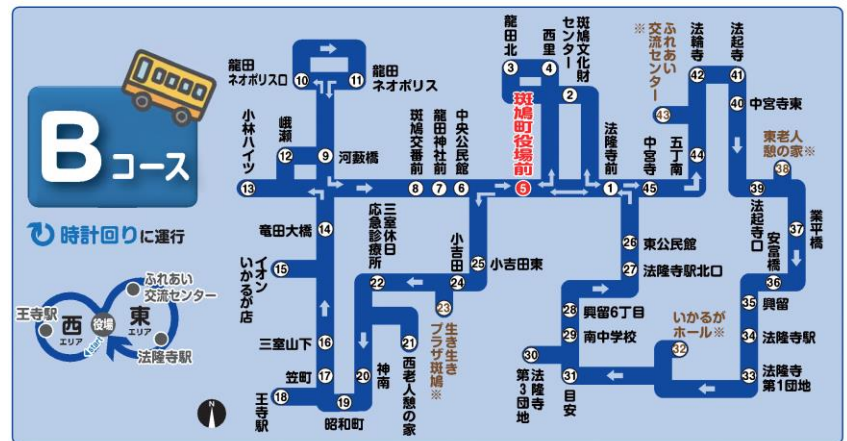
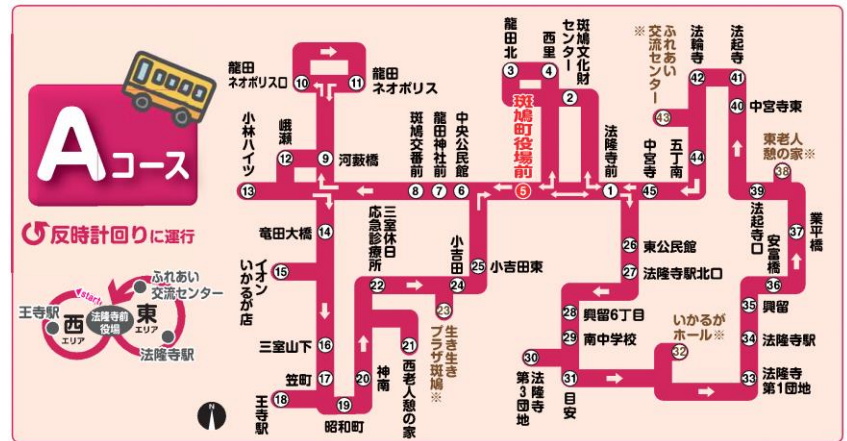


路線バスの路線図 (奈良交通HP)

曜日	平日 Weekdays		土曜日・日曜日 Saturdays & Holidays	
	72	81	72	81
1 車種	72	81	72	81
2 行先	法隆寺参道 Horyu-ji temple	大和小泉駅 Yamato-Kozuura sta.	法隆寺参道 Horyu-ji temple	大和小泉駅 Yamato-Kozuura sta.
3 5分	中宮寺前 Chugyu-ji-mae	中宮寺前 Chugyu-ji-mae	中宮寺前 Chugyu-ji-mae	中宮寺前 Chugyu-ji-mae
5				
6				
7				
8			58	
9	10 32 55		17 37 54	
10	20 44 44		17 35 57	35
11	2 20 44		20 44	
12	2 20 44		2 20 44	
13	2 20 44		2 20 44	
14	2 20 44		2 20 44	
15	2 20 44		2 20 44	
16	2 20 44		2 20 40 58	
17			18 46	
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				

○3月15日～15日の平日は土曜日ダイヤで運行します。○12月30日～1月1日の間は、日祝日ダイヤで運行します。
 ※平日は法隆寺参道(72)と大和小泉駅(81)の2系統が運行されています。土曜日は法隆寺参道(72)と大和小泉駅(81)の2系統が運行されています。日曜日は法隆寺参道(72)と大和小泉駅(81)の2系統が運行されています。

路線バスの時刻表 (奈良交通HP)

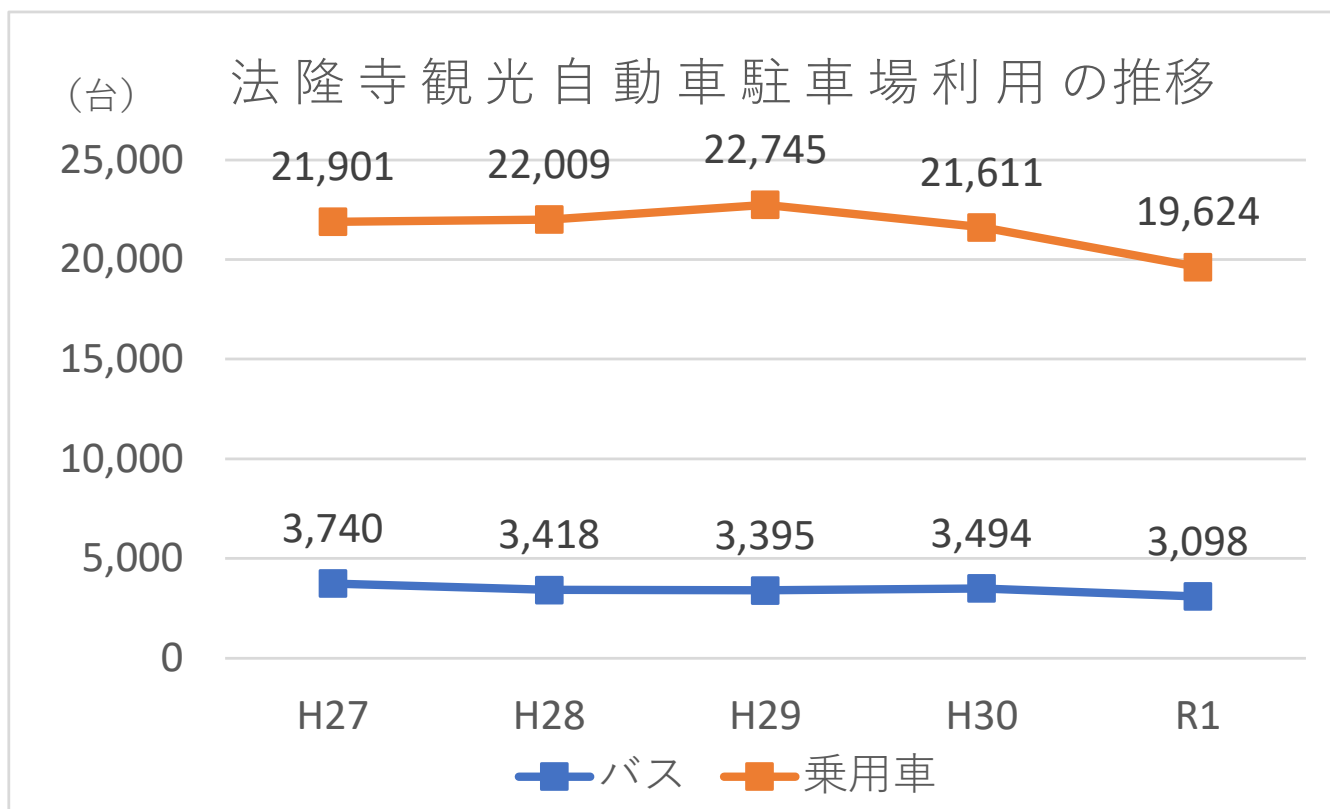


コミュニティバスの路線図

5. 対象地区の現況・特性（②交通）

c. 法隆寺観光自動車駐車場利用

法隆寺観光自動車駐車場の利用の推移は一時、乗用車の利用増加があったものの、近年は、乗用車、バスともに減少傾向となっている。



法隆寺観光自動車駐車場利用の推移

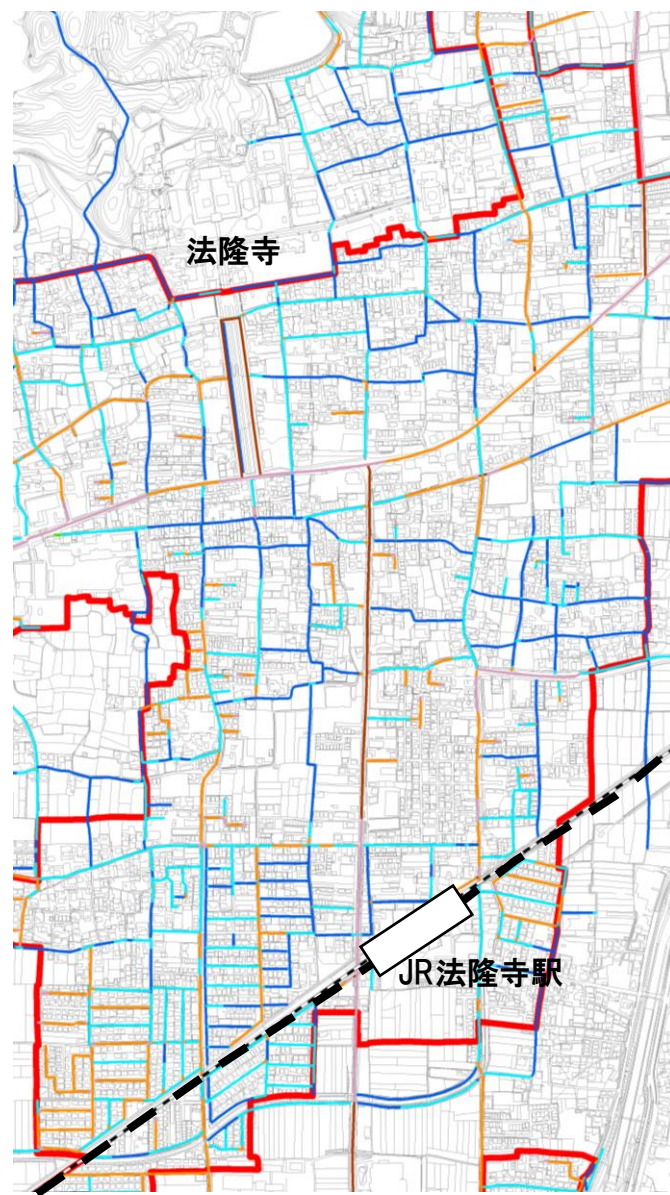
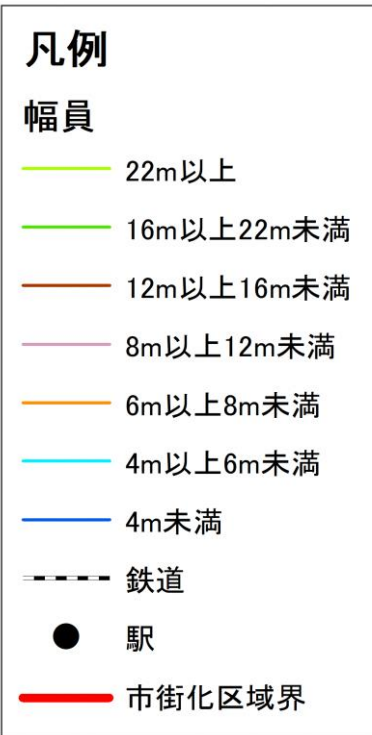
5. 対象地区の現況・特性 (②交通)

d. 道路の状況

県道や国道では、8m又は12m以上の幅員の広い道路が整備されている。一方で、JR法隆寺駅周辺では、6m未満や4m未満の道路が多く存在し、幅員が狭いため、車の対面がしにくい箇所や歩道が整備されていない箇所などが多く存在する。



駅北口へのアクセス道路の一部

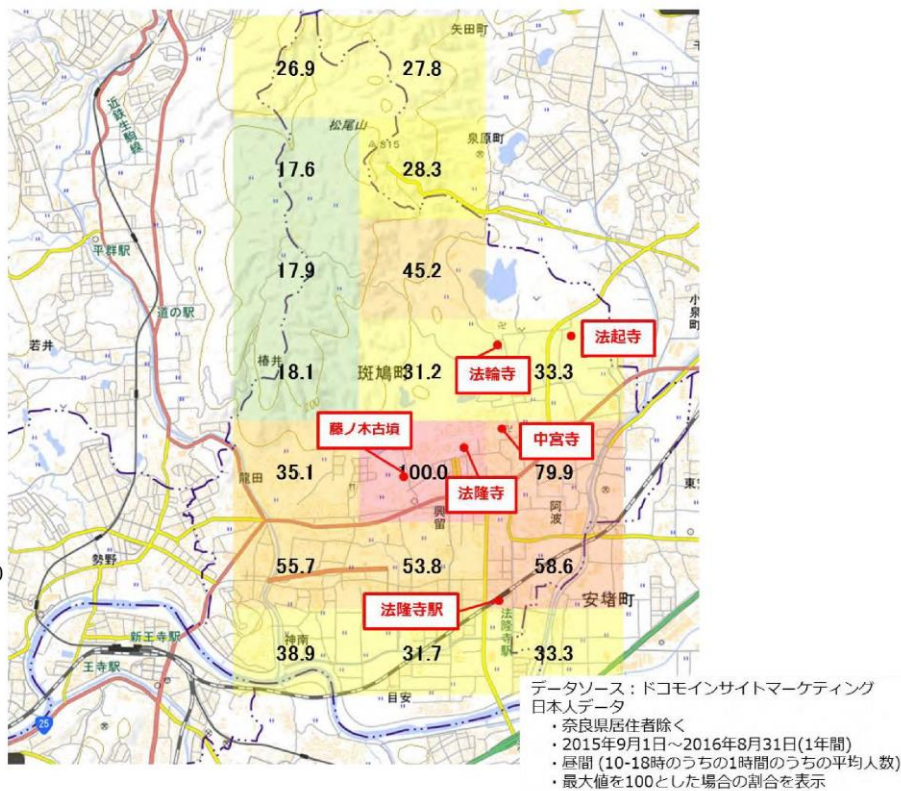


道路・鉄道網現況図

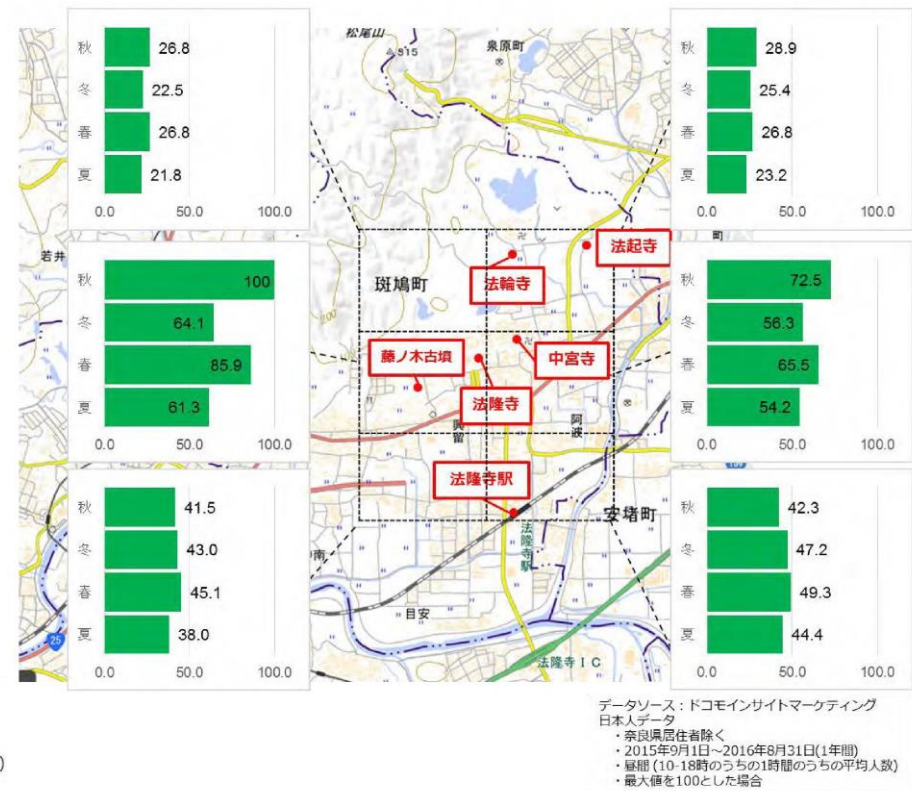
5. 対象地区の現況・特性 (③観光)

b. 日本人来訪者 訪問エリア

昼間1時間平均滞在人数は、法隆寺を含むエリアが最も多くなっており、JR法隆寺駅周辺等は、賑わいがそれほど高くない。



日本人来訪者 訪問エリア
(昼間 1時間平均滞在人数 推計数)



日本人来訪者 訪問エリア
(昼間) 主要訪問エリア× 季節別

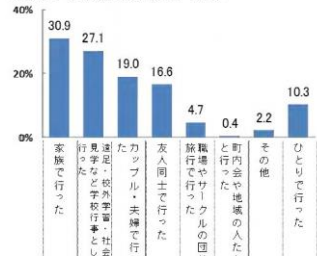
5. 対象地区の現況・特性 (③観光)

c. 斑鳩町へ訪れる際の交通手段と斑鳩町以外の訪問

本町への来訪形態は、団体旅行が少なく、学校行事の他は家族や夫婦、友人など個別で旅行する来訪形態が多く占めており、本町へ訪れる際の交通手段は、電車（JR線、近鉄）と自家用車でほぼ同じ割合となっており、これらで過半を占めている。これらの交通手段に次いでツアーバスが多く占めている。

また、外国人来訪者が他へ訪問した場所については、奈良市が最も多く、奈良市への観光と関連性が高いことがうかがえる。

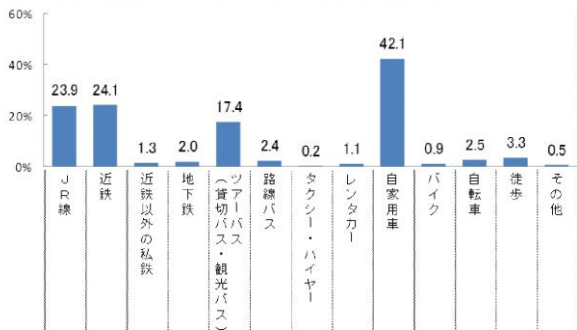
＜斑鳩町への来訪形態：Q3 N=553＞



＜斑鳩町来訪経路別＞

回数	104	125	202	144	87	10	19	20.2
4回以上行ったことがある	44.2	38.2	18.2	27.3	21.8	7.3	0.0	7.3
3回行ったことがある	11.7	30.8	21.4	23.1	22.2	5.1	0.0	4.3
2回行ったことがある	27.7	24.5	36.8	15.2	14.1	2.5	0.4	1.8
1回行ったことがある	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
行ったことはない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
複数回来訪経験あり	27.6	37.3	17.4	22.8	19.2	6.9	0.4	2.5
来訪経験あり	55.0	30.8	27.1	19.0	16.8	4.7	0.4	2.2

来訪形態 (インターネット調査)



本町へ訪れるときの交通手段 (インターネット調査)

斑鳩町滞在者が、他に訪れた日本国内エリアのうち平均上位35箇所

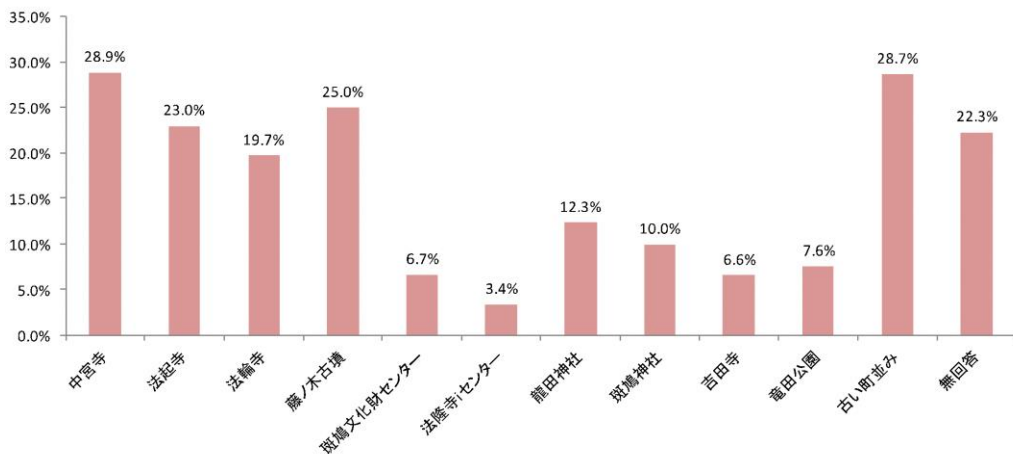
市区町村	主な観光地	訪問回数
1 奈良県奈良市	奈良駅 東大寺 奈良公園 春日大社	10.3%
2 京都府京都市東山区	清水寺 八坂神社	6.7%
3 大阪府大阪市中央区	大阪城 道頓堀	6.7%
4 京都府京都市下京区	京都駅	5.0%
5 大阪府大阪市北区	梅田	3.7%
6 京都府京都市中京区	二条城 錦市場	3.7%
7 京都府京都市左京区	銀閣寺 平安神宮 下賀茂神社	3.6%
8 京都府京都市右京区	嵐山	3.4%
9 大阪府田尻町	関西国際空港	3.2%
10 東京都台東区	浅草・上野公園・東京駅	3.1%
11 東京都千代田区	皇居・国会議事堂・近代美術館・秋葉原	2.9%
12 東京都中央区	銀座市場	2.7%
13 兵庫県姫路市	姫路城	2.7%
14 東京都港区	六本木ヒルズ・東京タワー・お台場	2.6%
15 東京都渋谷区	渋谷駅 原宿駅	2.6%
16 大阪府大阪市浪速区	難波 新世界(通天閣) 外国人宿泊施設 日本橋	2.2%
17 東京都新宿区	新宿駅	2.0%
18 京都府京都市北区	金閣寺 上賀茂神社	2.0%
19 大阪府泉佐野市	関西国際空港	1.9%
20 千葉県成田市	成田空港	1.7%
21 京都府宇治市	平等院鳳凰堂	1.5%
22 広島県廿日市市	厳島神社	1.5%
23 大阪府天王寺区	天王寺公園・外国人宿泊施設	1.4%
24 広島県広島市中区	平和記念公園	1.3%
25 神奈川県鎌倉市	高徳院(鎌倉大仏)	1.3%
26 東京都大田区	羽田空港	1.2%
27 兵庫県神戸市中央区	ポートタワー 南京町	1.2%
28 京都府京都市上京区	北野天満宮	1.2%
29 東京都墨田区	スカイツリー	1.1%
30 神奈川県足柄下郡箱根町	箱根温泉	1.0%
31 大阪市此花区	USJ	1.0%
32 岐阜県高山市	飛騨高山	0.9%
33 栃木県日光市	日光東照宮	0.9%
34 和歌山県伊都郡高野町	高野山	0.9%
35 石川県金沢市	金沢駅 兼六園 金沢21世紀美術館	0.9%

外国人来訪者が他へ訪問した場所 (ビックデータ調査)

5. 対象地区の現況・特性（③観光）

d. 本町の中で行ってみたい観光地

観光モニター調査では、本町の中で法隆寺以外に行ってみたい観光地としては、『中宮寺』や『古い町並み』などが多くを占めており、法隆寺以外の観光ニーズが存在している。しかしながら、法隆寺周辺では、近代的な建物と古い町並みが混在していることから、観光地の雰囲気や周遊を阻害する一因となっている。



本町で行ってみたい観光地
(観光モニター調査)

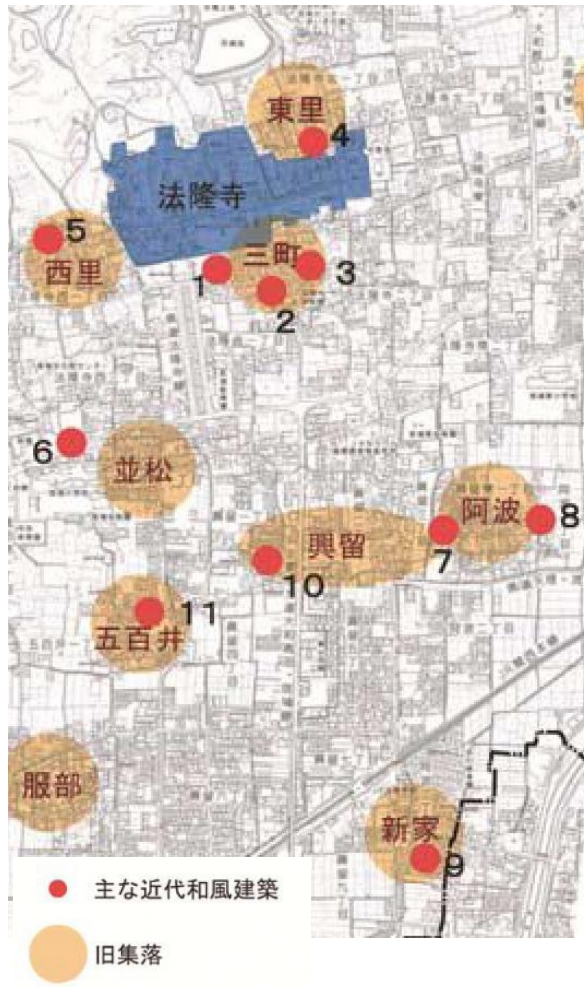


JR法隆寺駅から法隆寺までのルートの様子
(県道大和高田斑鳩線)

5. 対象地区の現況・特性 (④地域資源)

④地域資源

町内には、貴重かつ重要な文化財や近代和風建築、伝統行事といった豊富な地域資源が分布しているが、法隆寺周辺では特に多く分布している。



指定登録文化財の分布状況

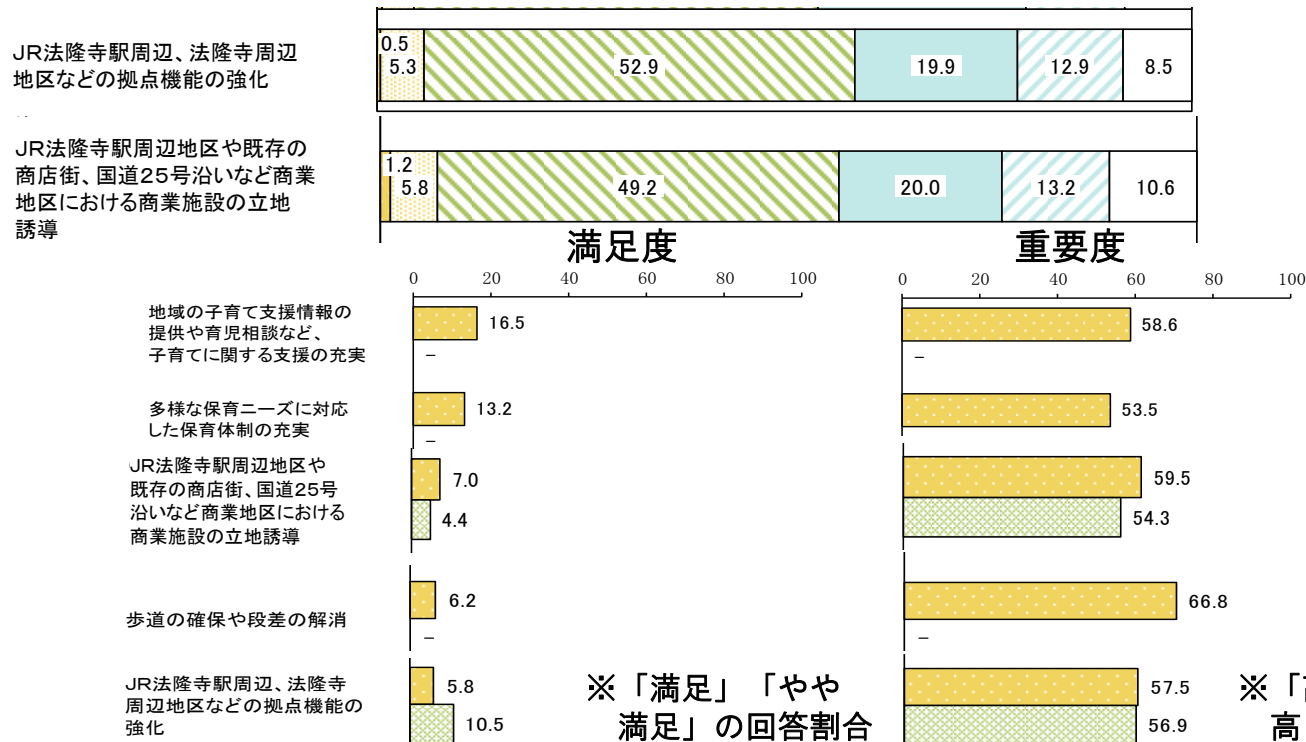
主な近代和風建築の分布

伝統行事の分布

5. 対象地区の現況・特性 (⑤暮らし)

⑤暮らし

まちづくりアンケート調査結果では、「JR法隆寺駅周辺や法隆寺周辺地区の拠点機能の強化」、「JR法隆寺駅周辺地区や既存の商店街、国道25号沿いなど商業地区における商業施設の立地誘導」の現状に対する満足度が低い。また、子育て支援の充実や商業施設の立地誘導、歩道確保や段差解消、拠点機能の強化などが満足度が低いことに加え、重要度が高くなっており、優先すべき取組みとなっている。



5. 対象地区の現況・特性

(2) 対象地区の特性

これまでの本地区における現況を踏まえ、本地区のまちの特性を「強み」「弱み」として以下に整理します。

【まちの強み】

○歴史・文化

- ・ 世界遺産の法隆寺を中心とした門前町をはじめ、街道の要衝
- ・ 指定登録文化財や近代和風建築が分布

○地区のポテンシャル

- ・ 主要幹線道路や鉄道駅が存在し、高速道路のインターチェンジにも近接し、町の中心地
- ・ 世界遺産の法隆寺を中心とする法隆寺周辺地区とJR法隆寺駅周辺地区との連携が求められる
- ・ 駅南部に農地の広がるエリアで積極的な土地利用が図りやすい

【まちの弱み】

○賑わい

- ・ 大部分が住居系土地利用で構成され、大規模小売店舗等の立地もみられない

○暮らし

- ・ 駅周辺では、拠点機能が低い

○交通環境

- ・ 駅の乗車人員は減少傾向
- ・ 駅から法隆寺へアクセスする路線バスのサービスが低い
- ・ 観光自動車駐車場の乗用車やバス利用が減少傾向
- ・ 道路環境が狭くて悪い

○観光

- ・ 法隆寺周辺のみ観光客が多く、周辺への来訪につながらない
- ・ 法隆寺以外の観光の魅力が低い
- ・ 様々な観光客のスタイルに合ったサービスができていない

6. 対象地区の課題

課題1：いかるがの魅力や集客の向上

- ・観光客の観光ルートが、法隆寺等の歴史的資源だけを訪れる拠点通過型観光となっている
- ・観光客の滞在時間が短い
- ・集客力のある店舗が少ない
- ・斑鳩ブランドに対する知名度が低い

【まちの強み】

○歴史・文化

- ・世界遺産の法隆寺を中心とした門前町をはじめ、街道の要衝
- ・指定登録文化財や近代和風建築が分布

【まちの弱み】

○観光

- ・法隆寺周辺のみ観光客が多く、周辺への来訪につながらない
- ・法隆寺以外の観光の魅力が低い
- ・様々な観光客のスタイルに合ったサービスができていない

6. 対象地区の課題

課題2：観光スタイルへの対応

- ・ 旅行客の観光スタイルは、個人旅行が主流となっている。
- ・ 町単独での観光戦略や観光施策の展開が多い

【まちの強み】

○歴史・文化

- ・ 世界遺産の法隆寺を中心とした門前町をはじめ、街道の要衝
- ・ 指定登録文化財や近代和風建築が分布

○地区のポテンシャル

- ・ 世界遺産の法隆寺を中心とする法隆寺周辺地区とJR法隆寺駅周辺地区との連携が求められる

【まちの弱み】

○交通環境

- ・ 駅から法隆寺へアクセスする路線バスのサービスが低い
- ・ 観光自動車駐車場の乗用車やバス利用が減少傾向

○観光

- ・ 法隆寺周辺のみ観光客が多く、周辺への来訪につながらない
- ・ 法隆寺以外の観光の魅力が低い
- ・ 様々な観光客のスタイルに合ったサービスができていない

6. 対象地区の課題

課題3：回遊性の向上とまちなみの保全・活用

- ・法隆寺周辺の歴史的な街並みが消失しつつある
- ・JR法隆寺駅において、観光の玄関口としての雰囲気を感じられない。

【まちなみの強み】

- 歴史・文化
 - ・指定登録文化財や近代和風建築が分布
- 地区のポテンシャル
 - ・世界遺産の法隆寺を中心とする法隆寺周辺地区とJR法隆寺駅周辺地区との連携が求められる

【まちなみの弱み】

- 交通環境
 - ・駅から法隆寺へアクセスする路線バスのサービスが低い
 - ・観光自動車駐車場の乗用車やバス利用が減少傾向
- 観光
 - ・法隆寺周辺のみ観光客が多く、周辺への来訪につながらない
 - ・法隆寺以外の観光の魅力が低い
 - ・様々な観光客のスタイルに合ったサービスができていない

6. 対象地区の課題

課題4：生活利便性の向上

- ・ JR法隆寺駅は町内の主要駅であり、駅周辺に都市機能や生活利便施設のニーズがある。
- ・ 法隆寺駅北口商店街は、通勤通学時間帯以外は買い物客が少なく、空店舗も多いことから、閑散としている。
- ・ JR法隆寺駅周辺の道路は幅員が狭く、歩道が整備されていない箇所も多い。

【まちの強み】

○歴史・文化

- ・ 世界遺産の法隆寺を中心とした門前町をはじめ、街道の要衝

○地区のポテンシャル

- ・ 主要幹線道路や鉄道駅が存在し、高速道路のインターチェンジにも近接し、町の中心地
- ・ 駅南部に農地の広がるエリアで積極的な土地利用が図りやすい

【まちの弱み】

○賑わい

- ・ 大部分が住居系土地利用で構成され、大規模小売店舗等の立地もみられない

○暮らし

- ・ 駅周辺では、拠点機能が低い

○交通環境

- ・ 駅の乗車人員は減少傾向
- ・ 道路環境が狭くて悪い

7. 現況・特性と課題を踏まえたまちづくりの目標・方針

(1) まちづくりのコンセプト（目標）

これまでのまちづくりの課題を踏まえ、本地区のまちづくりの目標とまちの将来像を以下に示します。

『賑わいのある感幸まちづくり』 ～幸せを感じられる和のまち～

【まちの将来像】

斑鳩町は、世界遺産法隆寺をはじめ、周辺には数多くの歴史文化遺産を有しており、これらの地域資源を次世代へ継承しながら、観光振興を目指すとともに、ＪＲ法隆寺駅から法隆寺に至る回遊性向上を推進し、観光や交流を主体とする賑わいのあるまちを目指します。

また、暮らし環境を向上させ、日々幸せな生活を享受できるよう、ＪＲ法隆寺駅や幹線道路までのアクセス機能の充実と生活利便施設の整備を合わせて行うことで日々の生活において幸せを感じられるまちを目指します。

7. 現況・特性と課題を踏まえたまちづくりの目標・方針

(2) まちづくりの基本方針

まちの将来像の実現に向け、まちづくりの視点（ターゲット）を設け、まちづくりの基本方針（方向性）を以下に示します。

まちづくりの視点
(ターゲット)

まちづくりの基本方針
(方向性)

歴史・文化・観光
(ターゲット：観光客)

1. 楽しく巡れる「まちあるき」の推進と選ばれる観光地づくり

2. 観光関連団体との連携による戦略的観光コンテンツの造成と満足度の高い観光地づくり

3. 「来て良し、居て良し」の快適なまちづくりと持続可能な観光地づくり

暮らし
(ターゲット：地域住民)

4. 官民連携による拠点整備と暮らしやすい地域づくり

7. 現況・特性と課題を踏まえたまちづくりの目標・方針

基本方針1：楽しく巡れる「まちあるき」の推進と選ばれる観光地づくり

- ・ 歴史資源以外の新たな魅力創造による『集客力の増強と滞在時間を伸ばすこと』による経済波及効果の拡大
- ・ 集客力のある店舗の出店促進、斑鳩ブランドの取扱店舗の拡充による知名度と消費額の向上を図る

【基本となる取組】

- ・ 法隆寺周辺における「宿泊施設・マルシェ」の整備【短期】
- ・ 官民連携による魅力ある店舗の誘致【中期】
- ・ 斑鳩ブランドのPRと販路拡大（認定数増加や新たな商品開発）【中期】
- ・ 歴史資源等を活用した体験プログラムの拡充【短期】
- ・ 宿泊者向け特別体験企画の開催【短期】
- ・ 斑鳩町と連携協定締結団体の連携による魅力UPイベントやセミナー等の開催【短期】

基本方針2：観光関連団体との連携による戦略的観光コンテンツの造成と満足度の高い観光地づくり

- ・ 個人旅行へのシフトチェンジに伴う、バスを利用した周辺地域とのつながりや相互移動の連動コンテンツの充実
- ・ 法隆寺から町内の回遊や奈良や明日香などの周辺地域に周遊できる二次交通手段の充実
- ・ 広域的目線による組織構築と事業推進

【基本となる取組】

- ・ 奈良交通やJR等と連携し、広域周遊を目的とした観光商品造成【長期】
- ・ 県内への「誘客」から県内「送客」に資する旅行商品の造成【短期】
- ・ WESTNARA広域観光推進協議会（大和郡山市、王寺町、生駒郡）の設立と推進【短期】
- ・ 斑鳩町から奈良や明日香など、周辺地域への二次交通の充実【中期】

7. 現況・特性と課題を踏まえたまちづくりの目標・方針

基本方針3：「来て良し、居て良し」の快適なまちづくりと持続可能な観光地づくり

- ・民間建築物を含めた一体的な歴史的まちづくりの推進
- ・公共施設の修景整備による歴史的まちづくりの推進
- ・JR法隆寺駅及び駅から法隆寺周辺へのルート上における観光客に対する雰囲気演出

【基本となる取組】

- ・民間建造物の修景整備に対する助成【短期】
- ・JR法隆寺駅から法隆寺までの観光案内看板整備、観光ルートの演出、歩行空間の充実【中期・長期】

基本方針4：官民連携による拠点整備と暮らしやすい地域づくり

- ・駅周辺の都市機能集積や生活利便施設の検討
- ・斑鳩町の玄関口としての商店街の賑わい向上
- ・自動車でのアクセス性向上及び、歩行者、自転車での利便性と安全性の向上

【基本となる取組】

- ・町有地を活用したチャレンジショップの整備【短期】
- ・JR法隆寺駅南側における都市機能の集積化の検討【長期】
- ・JR法隆寺駅までのアクセス道路整備
- ・JR法隆寺駅北口商店街の活性化
- ・一級河川「三代川」の改修

8. まちづくり構想図

【コンセプト(目標)】 『賑わいのある感幸まちづくり～幸せを感じられる和のまち～』

【基本方針】 歴史・文化・観光

- ・ 楽しく巡れる「まちあるき」の推進と選ばれる観光地づくり
- ・ 観光関連団体との連携による戦略的観光コンテンツの造成と満足度の高い観光地づくり
- ・ 「来て良し、居て良し」の快適なまちづくりと持続可能な観光地づくり

暮らし

- ・ 官民連携による拠点整備と暮らしやすい地域づくり

歴史・文化・観光



○宿泊施設の整備

- ・ 法隆寺周辺における「宿泊施設・マルシェ」の整備

○観光客が楽しめるコンテンツの充実

- ・ 官民連携による魅力ある店舗誘致
- ・ 斑鳩ブランドのPRと販路拡大 (認定数増加や新たな商品開発)
- ・ 歴史資源等を活用した体験プログラムの拡充
- ・ 宿泊者向け特別体験企画の開催
- ・ 斑鳩町と連携協定締結団体の連携による魅力UPイベントやセミナー等の開催
- ・ 奈良交通やJR等と連携し、広域周遊を目的とした観光商品造成
- ・ 県内への「誘客」からの県内「送客」に資する旅行商品の造成



- ・ WESTNARA広域観光推進協議会の設立と推進
- ・ 斑鳩町から奈良や明日香など、周辺地域への二次交通の充実

○観光基盤整備

- ・ 民間建造物の修景整備に対する助成
- ・ JR法隆寺駅から法隆寺までの観光案内看板整備、観光ルートの演出、歩行空間の充実

暮らし



○起点整備(チャレンジショップ)

- ・ 町有地を活用したチャレンジショップの整備

○都市機能集積等

- ・ JR法隆寺駅南側における都市機能の集積化の検討
- ・ JR法隆寺駅までのアクセス道路整備
- ・ JR法隆寺駅北口商店街の活性化
- ・ 一級河川「三代川」の改修

9. まちづくりの推進にあたって

以下の方針に基づき、まちづくりを推進することとします。

(1) 時間軸を踏まえた事業の推進

本地区のまちづくりの実現のために掲げられた事業は、それぞれ事業規模や事業期間、取り組みの熟度などが異なるもので構成されています。したがって、時間軸を踏まえ、事業実施時期などを見定めるとともに、事業の優先度も考慮してまちづくりを推進します。

(2) シビックプライドを醸成するまちづくり

本地区のまちづくりの実現にあたっては、地元住民をはじめとした町民の方々の協力が必要不可欠となっています。本地区のまちづくりを機会として、まちへの「誇り」「愛着」「共感」が図られ、シビックプライドが醸成するまちづくりを推進します。